

2018年3月期1Q 決算説明会 Q&A サマリ

2017年8月9日時点

【FY17 1Q 業績について】

Q 3ヶ月前と比較した事業環境の変化について確認したい。

A 大きな変化はないと認識している。市況に明るさが始めている感覚もあるが、力強さはない印象である。

Q 地域別の受注動向について確認したい。

A 中東は、前年度にアップストリームの大口ジョブがあったことによる反動で受注が弱く見えるが、下期偏重の計画であり、想定範囲内である。一方、欧州、中国の石油化学が好調であった。全体的に、原油価格の下落等に伴い、大口ジョブのサイズが小さくなってきている印象を持っている。

Q 制御事業の減収要因について確認したい。

A 事業撤退による影響も一部あるが、主に海外において売上が期ズレしていることが要因である。トラブルやお客様の資金繰り等、特殊な事象ではなく、ジョブ遂行の過程で遅延が発生していると認識しているため、2Q以降でリカバーできると判断している。

Q KBCグループの1Q実績について確認したい。

A コンサルティングの受注が回復傾向にあり、受注、売上、営業利益ともに年間計画を達成できると考えている。

	受注	売上	営業利益
FY16 1Q 実績	23 億円	35 億円	4 億円
FY16 年間実績	82 億円	103 億円	▲4 億円
FY17 1Q 実績	26 億円	26 億円	1 億円
FY17 年間予想	90 億円	100 億円	9 億円

Q 粗利率悪化の詳細について確認したい。

A 国内は、特徴的に採算の悪いジョブが幾つかあったことにより、粗利が悪化した。一方海外は、お客様の投資意欲の減退が底を打った印象を持っており、大きく回復してはいないものの、競争激化による粗利率の悪化は無く、横ばいと考えている。

また、FY16末の棚卸資産の水準が相対的に低かったこと、および減収による在庫増により、棚卸未実現利益が増加したことも粗利率悪化の1つの見方と考えている。

【FY17 業績予想について】

Q 年間計画達成の確度について確認したい。

A 受注残が十分に積み上がっており、売上については十分に確保できると考えている。また、利益については、売上の伸長に加えて、受注残の粗利率に鑑みた粗利率の改善等により、達成可能と考えている。

(注) 本資料で提供する情報のうち業績見通し及び事業計画等に関するものは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいています。従って、実際の業績は、様々な要因により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。なお、内容につきましては、理解し易いように部分的に加筆・修正しています。